

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103949		
法人名	社会福祉法人 諒和会		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	熊本市西区松尾町近津1364番地		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村報告日	平成24年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	平成24年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の小学校の運動会や地域の福祉祭り等に招待していただいたり、小学生は運動会等、保育園児はそばうちに招待し、地域との交流を図っている。近所の方や小学生が気軽に立ち寄り入居者と会話を楽しまれる等の関係が築けている。入居者それぞれに役割を持っていただき掃除や洗濯物たたみ、食事の準備、裁縫等の得意分野や趣味を生かした生活リハビリを取り入れ、心身の残存機能の維持、自立支援に取り組んでいる。併設施設と毎日申し送りを行い、連携を図っている。家族代表を決め、年に4回の家族会を開催し花見、夕涼み会、日帰り旅行、餅つきなど多くのご家族に参加していただきおご家族同士、職員との交流の場を設け情報を共有し、本人を支援していく関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人施設の敷地内の一角に建てられたホームは四季を感じることができる静かな環境に位置している。法人内で行われる季節ごとの神事には入居者も参加され喜ばれている。地域の小学生を対象にまず認知症に関する基礎知識や疑似体験の介護教室を開催し、その後年間を通して継続した交流を行っている。法人内の研修会は同一テーマで3回開催するなど、教育体制も整い、職員のケアの統一を図っている。またホーム内の勉強会は午前中に行い全職員が参加できるように改善し、持回りで担当するなど人材育成にも力を入れている。家族との信頼関係も構築されており、行事や外出にも協力的である。今後も入居者の趣味や能力を生かした個別対応を行い、身体機能低下防止に努められ、また地域や小学生との交流が継続して図られることに

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ありがとうの心をさりげないやさしさに」の理念の下職員綱領を作成し、毎日朝礼時に出勤職員で唱和することで理念に則したケアが実践できるよう取り組んでいる。	理念は玄関の目につく所に掲げ、また毎日朝礼時に理念を唱和し職員間で共有を図っている。毎月の勉強会等でも理念について振り返りを行うなど日々理念にそったケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント、小学校の運動会等への参加や法人内でのイベントへの参加等にて交流を図っている。また、散歩等で近所の方や子供達と挨拶を交わしたり通学時の見守りを行ったりと、日常的に気軽に交流を行っている。	小学校の運動会や地域の行事に参加したり、散歩時や小学生の登下校時に挨拶を交わしている。法人内の行事には地域の方を案内したり、年間を通じて小学生と定期的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生を対象とした介護教室を毎年開催し認知症高齢者や身体の不自由な高齢者への理解を深めていただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の評価の報告や当事業所の活動報告の他、議題を決め意見交換をしたり地域の情報を頂きサービスの向上に努めている。また日常を深く理解して頂く為、開催日を行事に合わせ参加して頂いている。	定期的に会議を開催し、活動報告や状況報告の他、毎回テーマを決め情報収集や意見交換を行っている。行事と合わせて開催しホームの日常の様子を見ていただいたり、時候にあったテーマでミニ勉強会も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には高齢福祉課の職員や地域包括支援センターが参加しサービスの取り組み等報告したり、地域の情報提供を受けている。また、介護相談専門員を受入れ、入居者の声も聞いていただいている。	市の担当職員とは日頃より市役所に出かけたり、連携をとり相談したり情報を得るようにしている。また運営推進会議に出席していただくようになり、ホームの様子を理解していただけるようになった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営理念に基づき身体拘束をしないケアを行っている。また、法人内勉強会で学ぶ機会を持ち、全職員が身体拘束について正しく理解しケアにあたるよう努めている。	職員は勉強会で身体拘束による弊害を正しく理解し、「身体拘束ゼロ宣言」を行っている。玄関は日中は施錠せず、出入り自由で入居者が出られる時は見守り中心で、日々身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修会の年間研修計画の中に虐待防止を入れ、全職員で学ぶ機会を設けている。また、入居者のちょっとした変化を素早く察知する努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内勉強会や研修会等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や解約時は職員2名で対応し、口頭と文書で説明を行い、十分に理解・納得された上で同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見・要望・苦言を遠慮なく頂ける様、用紙・ポストを設置し事務所の見やすい所に苦情相談窓口を設けている。また、介護相談専門員を受け入れ、相談員からの情報を基にサービスの向上に努めている。	面会時や毎月のお便りでホームでの状況を報告し、意見を聞くように努めている。年4回行事を兼ねた家族会を開催し、家族同士のつながりもできている。毎月介護相談専門員を受け入れることで、入居者についての情報を把握しサービスに活かすようにしている。	職員の異動は早めの情報提供や、状況を見極めながらキーパーソン以外へお便りを送付し意見・要望を聞く取組も期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議の場を設け、職員からの意見や提案を出し合っている。	日常的なコミュニケーションから職員の意見を把握したり、職員による提案もあり、毎月の会議で話し合っている。内部勉強会を午前中にすることで全職員が参加できるような改善にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格所得に向けた支援を行っており、各自の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会は、多くの職員が参加できる体制を設けている。事業所内でも月1回の勉強会を行い新入職員には新入職員マニュアルに沿った項目ごとに個別に指導し個々の知識・技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市グループホーム連絡会に参加し、同業者との意見交換や勉強会、講習会を開催し、外部研修にも参加し参加者は研修報告を行う事でサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂き、話しやすい環境を作り要望や不安な事を話して頂き、ゆっくりと聞き受け止め、ニーズを把握し入居後スムーズに対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で本人の思いや家族の思い、また当ホームの理念などゆっくりと話し合い、本人や家族が求めているものを理解し受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に無理がないように事前に遊びに来ていただき職員や環境に徐々になじんで頂き、本人や家族の希望を聞きながら、必要なサービスの支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話や食事準備・掃除・季節行事などの対応の中で共に学び一緒に考え、得意分野の活動を支えあいながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回の家族会、小旅行、衣替え等ご家族に協力して頂き、その都度生活状況、ご家族の思いや職員の思い等を報告し情報を共有しながら、本人を支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前生活されていた場所や馴染みの場所へのドライブを行っている。また、ご家族、親戚、友人などの面会や電話を受入、馴染みの関係が途切れないように努めている。	今までの馴染みの場所へドライブしたり、友人知人の訪問などで馴染みの関係が継続できるように支援している。行きつけの理美容室や墓参り同行は家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等他者と一緒に参加して頂いたり、入居者同士が交流を図れるように、状態に合わせて職員が間に入り、会話を取り次いだりして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた方に入居者と一緒に遊びに行ったり、グループホームでの行事に参加して頂き、継続的な関係を大切にしている。また、入院された方には経過を伺い、今後の意向の確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日常のかかわりの中での会話、動作等で望まれる生活を送って頂ける様に意向の把握に努め、それに合わせご家族からの情報収集も行っている。	入居者との日常の会話や関わりの中から、また家族からの情報収集から意向や希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にケアマネジャーやソーシャルワーカー等に確認すると共に、入居時や面談時にご本人またはご家族より生活歴や経過等情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当者を主に全職員で生活状況を観察し、評価を行い理解力、残存能力、心身状態等現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの意向の確認、担当職員を中心に各職員間で話し合いを行った上でサービス担当者会議を開催し現状に即した介護計画を作成している。	家族や本人の意向をもとに計画作成担当者が計画をたてている。担当職員による定期的なモニタリングやカンファレンスで他の職員の意見を聞きながら現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態や職員の対応は個人記録に記入し朝・夕の申し送りを行うことで職員間の情報の共有を図っている。また、介護記録をもとに月1回モニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に合わせて買い物やドライブ、また併設事業所のレクリエーションに参加するなどその時のニーズに柔軟に対応し、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議や地域包括支援センター等から情報を頂き社協主催のふれあい福祉祭りへの参加や地域、小学校、保育園等子供から高齢者まで交流の場を設けつながらりを深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に必ず本人、ご家族に説明し納得された上で協力医療機関を決定している。希望により他医療機関での往診もして頂いておりご本人の希望に沿うよう適切な医療が受けられる様支援している。	入居者や家族の希望するかかりつけ医とし、協力医療機関以外の医院も往診での対応もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。変化があった時には家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のDr往診時は医療連携看護も同行している。また、入居者の健康状態は随時報告し、適切な対応が出来るように指示受けをしており、協力体制確保が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診時や病院受診時に病院関係者とこまめに情報交換を行い、入院された場合には、かかりつけ医と入院先の担当Drと情報交換をして頂き、医療と介護の両面からの相談が出来るよう努めている。。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い事業所が対応できる最大の支援について説明を行い医師の助言や指導の下、本人やご家族と話し合い、意向を確認し方針を共有して支援を行っている。	重度化になった時の指針を作成しており、その時の状況に応じた住み分けがあることを入居時に説明している。重度化した時に、医師の指示や助言のもと家族と話し合い意向を把握し、ホームとして対応できる最大の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を年に1回必ず行い全職員が急変や事故発生時に対応できるよう訓練している。緊急時対応マニュアルを作成し周知徹底を図っている。又、入職時のオリエンテーションでも必ず行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、消防署協力のもと定期的に入居者と一緒に非難訓練をしている。施設内には非常用の食料などの準備を行っている。運営推進会議では訓練時の状況等報告し、地域の協力、理解が得られるよう体制を築いている。	消防署の立あいの下、法人合同で年2回入居者も参加して避難訓練を実施している。防災マニュアルや職員連絡網も整備されており、実際に職員応援要請訓練も行っている。運営推進会議を通じて地域の協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活全てにおいて言葉かけや対応には十分注意を払い、誇りやプライバシーを損ねないよう気持ちを尊重した支援を心掛けている。又認知症の勉強会等で言葉かけについても学んでいる。	人生の先輩として人格を尊重した対応を心がけ、プライバシーに配慮した言葉かけを行っている。記録類の保管は事務所でやっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	規定どりの日常生活を押し付けるのではなく、入居者の希望や意見を意図的に引き出していけるような環境、場面作りをし、自己決定が出来るよう働きかけている。また、全職員が利用者本位を徹底し心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側本意の支援ではなく入居者本人の希望、気持ちを尊重し、意見を取り入れながら複数の方に対するアプローチと個別でのアプローチと、その場に合わせた対応を心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向や好みで整えられるよう支援している。外出時の洋服は事前に一緒に選んで頂き着ていただいている。行事の時は化粧やマニキュアなどでおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に応じた調理や配膳・片付け等のできる事をして頂き、食事時は職員も同テーブルで食事を摂りながら好みの確認を行っている。ケーキを囲んでの誕生会や夏のそうめん流し等季節ごとに行事を行い季節を感じていただいている。	職員が季節感を取り入れた献立をたて、頂き物の食材で変更することもある。下ごしらえ・調理・盛り付け・後片付け等の入居者ができることを声かけし、一緒に行っている。職員も同じテーブルと一緒に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食個別に記録し、摂取状況の把握に努めている。メニュー、素材の偏りがないよう注意を払い、入居者の栄養状態や嚥下状態に応じた食形態にて提供している。水分は食事以外でもこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態を把握し、食後・就寝前に入居者の力に応じた歯磨き、義歯洗浄の声かけや介助を行うと共に、定期的に口腔ケア用品の消毒を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作りそれぞれの排泄パターンを把握し、早めの声掛けを行い失禁防止に努めている。紙パンツやパッドは個人の状態に合わせて見直しを行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンやしぐさをみて声掛けや誘導を行っている。布パンツやパット・紙パンツなど状態に応じて使い分け、トイレでの排泄を基本的に自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給はお茶や牛乳、イオン飲料水等をこまめに摂って頂き散歩や適度な運動での対応等で便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重し拒否がある場合には時間をずらしたり、機嫌の良い時に声掛けを行い柔軟に対応をしている。	週3回の入浴を基本とし、入居者の希望に応じて毎日でもできるよう柔軟な支援を行っている。入浴拒否がある時は、声掛けに配慮しタイミングを図っている。失禁時は、シャワー浴で対応し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体調や様子を見ながら散歩や軽い運動をしたり、時折休息を促す様にしている。就寝時間は本人のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人カルテに綴り常に内容把握できるようにしている。内服時には本人に手渡しし内服確認後薬袋を回収することで飲み忘れの防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室の掃除、食事作り、洗濯物干し等個々の得意分野を生かし役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人で必要な物、食材買出しに、近隣の店へ出かけ買い物をしていただいている。ドライブなどで外出行事を行い、季節を感じられる場所へ出かけるようにしている。	日常的には近隣の散歩や買い物に出かけている。季節ごとの花見やドライブ・外食、家族の参加もある日帰り小旅行など戸外に出かける機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力、理解をきちんと得て、本人でお金の管理をしていただいている。買い物は自分で支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に電話をし易いように職員が支援を行い、電話の子機を使用し、居室や玄関等で気兼ねなく話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、リビングは窓を大きくとり、季節や天候の変化を感じやすいように工夫している。食堂はいつも台所から食事の支度をする音や匂いがして生活感を高めるように工夫をしている。職員が大きな音を立てないように配慮している。	玄関やリビングには行事の写真を貼ったり季節の飾り付けを行っている。玄関先や玄関ホールにベンチを設置したり和室などで一人や気心の知れた人同士が過ごせる場所を確保してある。台所からは調理する音や匂いがして五感を刺激している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先と玄関ホールに椅子を置き、一人でまた仲のよい入居者同士で外の景色を眺めたりとくつろげる工夫をしている。和室には、テレビや座布団、テーブルを設置し思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、使い慣れた日用品や家具を置き、ご家族の写真や趣味の道具を飾って心地の良い空間になる様工夫している。	入居者の使い慣れたタンス・ソファ、テレビや家族の写真等が持ち込まれている。また、趣味の茶道の道具を飾ったり、ベッドのレイアウトを考えるなど一人ひとりにあった居室づくりの支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインになっており、手すり、椅子等、またはバギー車や歩行器を使用し、安全に移動し自立した生活が送れるよう環境作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

目標達成計画

作成日：平成 24年 10月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練を定期的に行っているが日頃からの防災に対する意識を高める必要がある。	入居者の方々には散歩時やレクリエーションとして避難場所や経路を意識しての防災訓練を行い、入居者と職員全員の防災に対する意識を高めていく。	・災害時マニュアルに沿った避難訓練を行う。 ・職員は常に災害時マニュアルに目を通し、月に一度のグループホームの勉強会時に行動を伴う確認を行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。